

巻 頭 言

スポーツ教育学科長 中瀬古 哲

「ジュニアスポーツ教育学科」は、2022年度より「スポーツ教育学科」と学科名を変更いたしました。それをうけ、第9号を創刊号により、「スポーツ教育学研究紀要」と名称を変更し再出発いたします。

2023年4月からは、男女共学となり、大学名は、「神戸親和大学」となるとともに、「発達教育学部」は、「教育学部」と学部名を変更いたします。

「ジュニア」「女子」「発達」という言葉からの決別は、人間の成長や発達、身体運動文化やスポーツを、より広い視野から多角的に捉えようとする決意のあらわれでもあります。

ジュニアスポーツ教育学科は、児童教育学科のスポーツ専攻をルーツとしておりますが、生涯スポーツ、地域スポーツ、障がい者スポーツも視野にいれた幅広い学びに対応したカリキュラムを構成しております。しかしながら、ジュニアという概念からは、どうしても青年期までのスポーツ指導或いは学校体育のイメージを喚起します。今回の名称変更によって、名実ともにより多様な視点からスポーツと教育に関して研究・教育できる学科へとさらに発展できればと考えております。

「日本体育学会」も、2021年に「一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会」へと学会名称を変更しております。学術研究の分類においては、「身体教育学」と「スポーツ科学」という言葉が使用されているにもかかわらず、体育、スポーツ、健康、という三つの言葉を並べるといふ何とも中途半端な名称変更となっております。しかも通称「体育学会」とするとのこと。どうしても体育という言葉から決別することができていません。

体育の概念は、本来学校という限定された場所で行なわれる身体運動を対象としてきたと言われてきました。それに対して、スポーツ教育学は、地域スポーツクラブから国際規模のスポーツイベントや競技大会等学校以外のあらゆるスポーツ実践を対象としています。

現代社会や人間の発達は、スポーツ抜きには語れないと言われて久しいのですが、今日ますますそれは顕著になっています。

スポーツ教育学研究紀要への名称変更にあたり、その言葉に込められた意味を再確認し、学校体育に限定しないスポーツ実践の変革・発展をめざして研究を推進するとともに、広く情報を発信し続ける努力を誓いたいと思います。